

大学図書館コレクションと大学スポーツ成績

永見聡一朗（筑波大学情報学群知識情報・図書館学類：nagami@klis.tsukuba.ac.jp）

辻 慶太（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科：keita@slis.tsukuba.ac.jp）

要旨

大学図書館のスポーツに関する図書の所蔵数と大学スポーツ成績の関係を調査した。具体的には、大学図書館のスポーツに関する図書を、スポーツ全般に関連する図書と個別のスポーツに関する図書に2分し、その所蔵数と大学スポーツ成績との関係を見た。大学スポーツ成績の比較には『全国大学スポーツランキング』を使用した。その結果、スポーツに関する図書の所蔵数と大学スポーツ成績の間には正の相関がみられた。

1. はじめに

本研究では、図書館のスポーツに関する図書のコレクションと利用者のスポーツ成績の関係を明らかにしたい。より具体的には、大学図書館と大学スポーツの成績に焦点を当て、スポーツに関する図書の所蔵数が大学スポーツ成績に影響を与えているのかを明らかにしたい。

2. 本研究の背景と意義

現在、図書館では競技スポーツへの具体的・明示的な支援は行われていない。一方で、図書館では利用者の情報欲求を満たすために、様々な情報提供サービスが行われている。近年、公共図書館においては従来の貸出しサービスに加えて、ビジネス支援や医療情報や法律情報の提供など、図書館コレクションを利用した新たな情報サービスの提供が活発になりつつある(吉田(2008), 秋元(2008))。

秩父宮記念博物館・図書館, 野球体育博物館図書室, 体育とスポーツの図書館などは体育やスポーツに関する図書を専門的に収集している図書館であるが、いずれも文化的な資料として体育やスポーツに関する図書を収集・提供することを主な目的としており、競技スポーツに対する支援を目的として運営されてはいない(伊藤(2008), 出

原(2010))。また、山井(1972)は体育学系の学部を有する大学の大学図書館の整備の遅れを指摘したが、その後の調査は行われていない。学校図書館を保健や体育の授業に活用した事例は存在するが、これらは競技スポーツの支援ではない(池田(1999), 森(2009))。日本の国際競技力向上を目的として設置されている国立スポーツ科学センター(JISS)も、「スポーツ情報事業」を展開しているが一部のトップアスリートへの支援にとどまっており、図書館を備えてはいない(JISS(2003-2009))。

だが競技スポーツの支援には以下の3つの意義があり、図書館も積極的に関わるのが望ましいと考える。即ち、(1)「見るスポーツ」として人々に満足感や感動を与え、人々の士気の向上をさせる、(2) オリンピックやサッカーのワールドカップ、又は国体等で見られる開催国・開催地域への経済効果、(3) 企業スポーツや大規模大学スポーツにみられる宣伝効果、の3つである。図書館による競技スポーツの支援が有効であることが示せれば、図書館界にとっても図書館の価値のアピールになり、新たな利用者の拡大につながり、競技スポーツ界・図書館界ともにwin-winな関係を築くことができる。

3. 調査対象校の決定

本研究では大学図書館を調査対象とした。その理由は、(1)他の館種と比べて、図書館利用者が限定されており、利用者の競技スポーツの成績を収集することが容易なため、(2)インターカレッジ等の大学の対校戦を主とする大学スポーツは競技スポーツとしての特性が高く成績の評価がしやすいため、である。本研究では、多競技に渡って日本の大学スポーツの成績を数値化したほとんど唯一の資料であり、早稲田大学スポーツ新聞に毎年1月に掲載される『全国大学スポーツラ

ンキング(以下, スポーツランキング)』を使用し, 調査対象校や各校の成績を決定した。

4. 調査手法

本研究ではスポーツに関する図書を大きく“スポーツ全般関連図書”と“競技別スポーツ関連図書”に2分し, 以下の3つの調査を行った。即ち, (1)大学図書館における「運動生理学」等といったスポーツ全般に関連がある図書(以下, スポーツ全般関連図書)の所蔵数と大学スポーツ成績の関連の調査(以下, 調査1), (2)大学図書館における競技毎のスポーツ関連図書(以下, 競技別スポーツ関連図書)の所蔵数と大学スポーツ成績の関連の調査(以下, 調査2), (3)調査2で得られた競技別スポーツ関連図書の所蔵数を各大学で合計し, 大学図書館全体の競技別スポーツ関連図書の所蔵数と大学スポーツ成績の関連の調査(以下, 調査3), である。

4. 1. 調査1: スポーツ全般関連図書の調査

スポーツ全般関連図書はタイトルあるいはサブタイトルに「運動生理学」「バイオメカニクス」「スポーツトレーニング」を含む図書とした。また, 使用するスポーツランキングが2008年度版であることを考慮して, 図書の出版時期は1945年1月から2008年3月までとし, 所蔵数の調査には各大学のOPACを使用した。

4. 2. 調査2: 競技別スポーツ関連図書の調査

競技別のスポーツ関連図書はタイトルあるいはサブタイトルに各競技名と「トレーニング」, 「練習」, 「講座」, 「上達」, 「コツ」, 「マスター」, のいずれかのキーワードを含んでいる図書とし, その選出にはNDL-OPACのタイトル検索を利用した。また, 選出数は最高でヒットした上位50冊までとした。

調査2では各競技における上位校/下位校をそれぞれ, スポーツランキングでその競技においてポイント¹を獲得している大学(8位以内の成績を

¹ スポーツランキングでは各競技のインターカレッジ等の大会の団体成績を集計し, 1位=10点,

収めている大学。以下, ポイント獲得校)/ポイントを獲得していない大学(8位以内の成績を収めていない大学。以下, 非ポイント獲得校)と定義し, 「スポーツランキング上位20位校の21校中7校以上が8位以内に入りポイントを獲得している13競技」について調査した。その結果, 調査対象競技は「柔道」, 「弓道」, 「競泳」, 「陸上競技」, 「ラグビー」, 「スキー」, 「スケート」, 「バレーボール」, 「アメリカンフットボール」, 「ヨット」, 「フェンシング」, 「ライフル射撃」, 「ソフトテニス」, となった。

競技別スポーツ関連図書の各大学における所蔵数の調査には, Webcut Plusの「所蔵館情報」を使用した。Webcut Plusに参加していない大学図書館に関しては調査1と同様に各大学のOPACを使用した。

4. 3. 調査3: 競技別スポーツ関連図書の各大学の全所蔵数

調査3では調査2で得た各競技別のスポーツ関連図書の所蔵数を大学毎に合計した。調査2が各競技において個別に競技別スポーツ関連図書の所蔵数と大学スポーツ成績との比較を行ったのに対し, 調査3では複数の競技の競技別スポーツ関連図書の所蔵数を合計することで大学図書館全体の競技別スポーツ関連図書の所蔵数と大学スポーツ成績との比較を行った。

また, スポーツランキングのポイント²を調査2の調査対象競技の13競技内で換算し直し², 13競技におけるランキングを作成した。加えて, 競技別スポーツ関連図書の所蔵数も大学図書館全体の蔵書冊数に影響を受けると考えられるため, 競技別スポーツ関連図書の所蔵数を各大学図書館の蔵書冊数(千冊)で除算することで補正を行

2位=8点, 3位=6点(以下, 8位(=1点)まで1点ずつ減少する)と順位に応じてポイントを与え, 全43競技の合計ポイント数でランキングを作成している。

² ポイントの換算はスポーツランキングと同じ手法をとった。即ち, インターカレッジ等の順位に応じて各大学にポイントを与え, その合計ポイント数でランキングを作成した。

った。

5. 結果と考察

以下では、各調査(1~3)の結果と考察について述べる。

5. 1. 調査1：スポーツ全般関連図書の所蔵数と大学スポーツ成績の関連

ランキング1位の日本大学のOPACは機能上、調査が困難であった。そのため、日本大学を除いたスポーツランキング上位10校(2~11位校)と下位10校(12~20位校)のそれぞれ10校での平均所蔵数を比較した。その結果「スポーツトレーニング」、「運動生理学」、「バイオメカニクス」の全てにおいて上位10校は平均所蔵数が下位10校より多いという結果を得た(表1)。表1から例えば、上位10校では「運動生理学」をタイトルあるいはサブタイトルに持つ図書が平均で70.6冊所蔵されていたことがわかる。

5. 2. 調査2：競技別スポーツ関連図書の所蔵数と大学スポーツ成績の関連

各競技においてポイント獲得校と非ポイント獲得校の平均所蔵数を比較すると、「ラグビー」以外の12競技においてポイント獲得校は平均所蔵数が非ポイント獲得校より多かった(表2)。表2から例えば、柔道競技におけるポイント獲得校は、柔道に関する競技別スポーツ関連図書の選出数(調査図書数)の26冊のうち所蔵数が平均4.63冊、非ポイント獲得校は平均3.00冊を所蔵していたことを示す。

5. 3. 調査3：競技別スポーツ関連図書の各大学の全所蔵数と大学スポーツ成績の関連

13競技におけるランキングの上位11校(1~11位校)と下位11校(11~20位校)を比較したところ、上位11校の方が全所蔵数、全所蔵数/蔵書冊数、共に下位11校よりも多かった。また、2008年度スポーツランキングの上位11校と下位11校でも比較を行ったところ同様の結果が得られた(表3及び表4)。表3では例えば、13競技でのランキングの上位11校においては、競技別ス

ポーツ関連図書の全所蔵数が平均で70.6冊、その全所蔵数を図書館全体の蔵書冊数(千冊)で除算した平均数が0.068冊であることを示す。表4では例えば、スポーツランキングの上位11校においては、競技別スポーツ関連図書の全所蔵数が平均で67冊、その全所蔵数を図書館全体の蔵書冊数(千冊)で除算した平均数が0.063冊であることを示す。

5. 4. 考察

本研究により、大学図書館のスポーツに関する図書の所蔵数と大学スポーツの成績の間には正の相関があることが示された。また、スポーツ全般関連図書よりも競技別スポーツ関連図書の方がより強い相関を示したことは興味深い。競技別スポーツ関連図書の方が各競技の技術等に関する図書が多く、よりスポーツ成績の向上に貢献するものと考えられる。

しかし、本研究の結果からスポーツに関する図書の豊富なコレクションが直接的に高いスポーツ成績に結びついたらとまで言いきることは出来ない。スポーツに関する図書の所蔵数とスポーツ成績に正の相関が生じることとなった要因としては以下の3つが考えられうるためである。即ち、

- (1) 学生によるリクエスト：高いスポーツ成績を持つ大学の選手は意識が高く、図書館に対してスポーツに関連する図書をより多くリクエストした。
- (2) 大学による購入促進：高いスポーツ成績を持つ大学は、大学スポーツに対する取り組みが元々高く、図書館でも多くのスポーツに関する図書を購入するよう促した。
- (3) 図書館による購入：大学のスポーツの成績が良かったため、そのことに注目した図書館がスポーツに関する図書を多く購入した。

などがある。これら以外の原因の考察および、説明は今後の課題としたい。

6. おわりに

今後は、(1)図書館のスポーツに関するコレクションの利用率及び、(2)図書による情報収集の

関心の高さに関する調査を予定している。この2つの調査により、スポーツに関する図書の利用率や利用者の情報収集に対する意識の差が、大学スポーツ成績とどのように関連を持つのかを明らかにしたい。これにより、図書館コレクションと大学スポーツ成績の関連をより多面的にみることができ、本研究の課題の解明にもつなげることができると考えている。

参考文献

- ・吉田倫子. 医療情報から法情報へ: 課題解決サービスの最前線で. 図書館評論. 2008, vol. 50, p. 44-54.
- ・秋元敏. 特集図書館の新しいサービス: ビジネス支援サービス実践報告: どの図書館でもできるビジネス支援. みんなの図書館. 2008, vol. 57, no. 1, p. 34-41.
- ・伊藤敬. 特集博物館の図書室. スポーツ博物館とスポーツ図書館. 専門図書館. 2008, no. 233, p. 22-26.
- ・出原泰明. スポーツ文化を支える専門図書館の誕生. 体育課教育. 2010, vol. 58, no. 5, p. 56-60.
- ・山井康司. 体育研究と体育図書館. 大学図書館研究. 1972, no. 21, p. 107-112.
- ・森良一, 白旗和也. 体育科における学校図書館の活用. 学校図書館. 2009, no. 706, p. 48-50.
- ・池田延行, 戸田芳雄. 教育課程の改善と学校図書館: 保健体育科の改善と学校図書館. 学校図書館. 1999, no. 581, p. 81-83.
- ・国立スポーツ科学センター. 国立スポーツ科学センター年報. 2003-2009.

	運動生理学	バイオメカニクス	スポーツトレーニング
上位10校	70.6	36.7	26.4
下位10校	63.5	29.9	18.7

表 1. スポーツ全般関連図書の所蔵数

	柔道	陸上	アメフト	ライフル射撃	弓道	競泳	ラグビー	ヨロイト	スキー	スケート	バレーボール	フンシング	ソフトテニス
ポイント獲得校数	8	8	10	8	7	7	7	8	8	7	7	7	7
調査図書数	26	38	46	14	20	43	22	16	50	8	48	8	19
ポイント獲得校	4.63	6.13	7.50	1.00	6.17	9.58	2.57	1.13	6.13	1.14	13.71	2.57	3.86
非ポイント獲得校	3.00	6.00	4.18	0.69	3.71	7.02	3.79	1.00	1.69	0.57	4.79	0.93	3.14

表 2. 競技別スポーツ関連図書の所蔵数

	全所蔵数	全所蔵数/蔵書冊数		全所蔵数	全所蔵数/蔵書冊数
上位11位校平均	70.6	0.068	上位11位校平均	67	0.063
下位11位校平均	24.6	0.015	下位11位校平均	30	0.020

表 3. 13 競技のランキングにおける競技別スポーツ関連図書の全所蔵数 (左)

表 4. スポーツランキングにおける競技別スポーツ関連図書の全所蔵数 (右)